

佳作

「風の島の王様」

藤原 生子

★登場人物一覧

王様

きじむな

島の家来1、2、3、4、5

ノ口頭、ノ口1、2、3、その他数人

村人1、2、3、4、5、その他数人

西の国の役人

西の国の家来1、2、その他数人

北の国の役人

北の国の家来1、2、その他数人

★場面

村のはずれの御願所うかんじゆのある森の中

★ナレーション

むかし、南の海のはるか沖の方に、縄を浮かべたように長く横たわる小さな島がありました。その島には王様が住んでいました。王様のもとでは、島の人達が貧しいけれども、互いに助け合って、平和にくらしていました。春には南国の花が、赤瓦と調和してまぶしい光の中で鮮やかに咲き乱れています。海の色はどこまでも青く透き通り、キラキラ輝いています。時折吹く風もさわやかな香りを運んできて生きている事の喜びを感じさせられます。暑い夏になると南の島は一段

とにぎやかにあります。魚を取る人、太陽をあびて泳いでいる人、浜辺のここちよい涼風を受けて水辺で戯れる人などで、一日中人々はせわしそうな動きの中で過ごしています。しかし秋になると、そんな活動的で楽しいかった季節もあつと言う間に昨日の出来事として流れて行ってしまうのです。そして南のそのまた南の海から毎年のように不気味な黒いマントをなびかせ、うなり声をあげながらおそろしい怪物がやって来て、島の草や木を根こそぎなぎ倒して、暴れまわって行くのです。

人々は住む家や、食べる作物を失い、はては命まで奪われてしまうので、なんとかその怒りをしずめようと、島の王様を始め村人達はその怪物をなだめようと祈りをささげる事になりました。

―――
一幕
―――

（御願所を中心に村人、ノロや島の役人が御願の準備で動く中、御願所

のそばには役人を従えて王様が腰かけている）

島の役人1（方言でせりふを言う）

「今日は王様をはじめ、ノロの人達や村人を集めてかねてからしなければならな
いと思っていた厄払いの御願を、とりお
こなう日がやってきた。みなの方、準備
は整ったか？」

村人1（方言でせりふを言う）

「はい、御願うがんの準備が整いました。わた
したち村人むらびともまちかねておりました。今
日は王様が来てくださったので、いつに
もましてこんなうれしいことはござい
ません」

村人2（方言でせりふを言う）

「王様がじきじきに来てくださって、村人といっしょに御願を取り持つのですから、天の神様も必ずや願い事を聞いて下さることでしょう」

村人3（方言でせりふを言う）

「去年の怪物はわったー畑の実のついたバナナの木やさとうきびを片っぱしからなぎ倒し、野菜や草の葉まで根こそぎかきむしってあつと言う間に走り去って行った、こんな悔しいことはいままでもなかった！憎らしいと言ったらありやしない！」

村人4（方言でせりふを言う）

「あきさみよー、わったーやーぬ天井や、

みんな吹き飛ばされて穴ゴーゴーなってしまったさー。雨の降る日はカサをささないとくらししていけなくなってしまったよ！いったいいつになったら元通りになるのか、わかいびらん・・・」

村人5（方言でせりふを言う）

「去年の怪物はたちが悪かった。あんなに精魂傾けて育てた収穫前の稲の穂をさんざんかきむしって食い散らかして行ってしまったんだから！もうどうしていいか、泣くに泣けなくて・・・今年も米が採れたら少しは病気のあんまーにもいい薬を買ってやれるのにと思っていたのだが・・・だあーなあ・・・」

村人1（方言でせりふを言う）

「なにを言ってるか！作物がやられただけならまだましやさ！わったーおばあーは目の前で、さらわれてあれよあれよという間に空中に持ち上げられあつと言う間に、地面に叩きつけられ助ける事も出来なくてとうとう命を奪われてしまつた。情けなくて！すまなくて・・・助けられなかったことが悔やまれて悔やまれて我んねーいつまでも肝どうやむさ・・・」

村人2（方言でせりふを言う）

はやく天の神に御願して、二度とこのような事にならないようお願いするとし

よう」

村人3（方言でせりふを言う）

「やんよー早く御願してしまつたほうがみんなの心の荷も軽くなると言うものよ！」

島の家来2（方言でせりふを言う）

「わったー王様もこのことはよく承知していて心をいためておる。だからこうして王様がじきじきに来られて、御願をする事になったのだから、もう心配することもなくなるはずだ！」

島の役人3（方言でせりふを言う）

「王様準備がととのつたようでございます。それではこちらへどうぞ」

(役人を従えて王様を祭壇のほうへと案内する)

王様(方言でせりふを言う)

「みななもの、ご苦労であった。今日こうして村人と共に厄払いの御願をとりおこなうことができたのはなによりである。今年は怪物がこないように、また村人が食べる心配がないように、しかともてなし、みんなの願いごとを叶えてもらおう。天の神、地の神、島の神を恐れ、大切に思っていることをお知らせして、どうか平和で豊かな年にしてくださるように、また願い事を聞き届けてくださる

ようにお願いするでしょう」

ノロ1(方言でせりふを言う)

「ああ、なんとありがたきお言葉。今のお言葉を天の神、地の神、島の神も必ずやどこかで聞いているにちがいない」

ノロ頭(方言でせりふを言う)

「偉大なるこの世の救い神でおわします、天の神、地の神、島の神どうか今年は何の心配ごとも起こらないように、力をかしてください。ウートートー、アートルー。貧しいけれど平和なこの島に災いをもたらすことなく、毎日心穏やかに過ごすことができますように、どうぞお助けください。今日は米や酒やくだもの、

タナフアクルーなどなにからなにまでたくさんお供えしておりますので、気持ちよく受け取ってくださいって、偉大なる神の力でどうか怪物があばれませんように、なだめすかしてください。……今日こうして王様をはじめ、村人たちがあつまり、ともに御願にまいつております。みんなの願いをどうか、どうか、聞き届けてくださいますよう心よりお願いいたします。ウートートー、アートートー……」

ノロ2（方言でせりふを言う）

「それでは恐れおおい天の神、地の神、島の神を崇め奉り、^{あがたてまつ}祈りの声がどこまで

も届くように声高らかに褒め称えましょう。さあ、ノロの臣下の者たちよ！みんなに声をかけ集まってもらうようにせよ」

ノロ3（方言でせりふを言う）

「承知しました。臣下の者よ！^{ちゃー}集まれ！集まれ！」

（ノロ3が下手の方に向かって声をかけるとノロ数名が舞台へ出て来る。そしてノロ頭はじめノロ全員が舞台の真ん中に出て、円陣になって、小走りになり「ユーファイユーファイ」「エーファイエーファイ」と声をあわせ、手拍子をとり祈りながらまわっている。途中で照明が暗くなり、幕が下りる）

★ナレーション

こうして祈りの日は暮れて行きました。それから幾日かが過ぎたある日、西の国の王様の使いだという役人が大勢の家来をお供に王様に会いにやってきました。

二幕

★場面

むらうち
村内の大通り

村人1（方言でせりふを言う）

「でーじなとーんどー、でーじなとーんどー、うりひやーでーじなとーさ」

（村人が上手から、下手からつぎつぎ飛び出し大声で叫びながら、舞台を走り回る）

村人2（方言でせりふを言う）

「ぬーやがー、ぬーやがー。ぬーなどーるばあがー」

村人3（方言でせりふを言う）

「ぬーやらわん、しむさ、へーくひんぎれひんぎれー、でーじなとーさ、えーえーこの年になるまで見たこともない人達ちゆたが村うちの大通りを大勢で行列をなして歩いて来るさ！」

村人4（方言でせりふを言う）

「みじらしむんぬ、ひるましむんやさ、
なままでい見たことのない顔に、見たこ
ともない兜かぶとをかぶってよ！今まで見たこ
とのない着物をきて、変なくつをはいて、
へんちくりんな恰好をしてここにやって
くるよー。へーくひんぎれー」

村人5（方言でせりふを言う）

「あきさみよー、あきさみよー、太鼓やら、
らっぱを吹き鳴らしながら、どんどこど
んどこ太鼓に足並みをそろえて、隊列を
組んでやってくるさー」

村人1（方言でせりふを言う）

村人2（方言でせりふを言う）

「なーでーじなとーん。何か起こりそう
な気配がしてだてん胸さわぎがするさー」
「うりひゃー、ちゃんどーちゃんどー。
先頭には一段と立派な服をきた役人が家
来にかつがれて立派な屋根のついた神輿みこし
の上でふんぞりかえっているさー」

村人3（方言でせりふを言う）

「えー、えー、神輿の上のえらい人は長
いひげをなでなでしながらお城にむかっ
て進んでいるよー。何しに来たのかねー
どこの国の人たちかねー」

村人4（方言でせりふを言う）

「いえーひゃー。ふらーふーじーやーどーどー」

このだれかわかればこんなにさわぐはずはないだろう。考えてもわかるはずなのに！どこの誰かわからないから、さーうとうるさぬ、みちなーかさわじようる」

村人5（方言でせりふを言う）

「村の女や子どもたちは怖がつてがたがたーしてすぐ家やの中に隠れよつたさー」

村人1（方言でせりふを言う）

「あきよー、あきよー、うとうるさむんぬ見いぶさむん、ガタガタしーがちなー、男いきかんちや達は、戸や半分閉みやーにかい、片目やくーてい、穴小からまじまじと見ていたさー」

村人2（方言でせりふを言う）

「えーまたよー道中で遊んでいた子供たちは、びっくりしたはず、鉄砲の弾がはじけたように大騒ぎして走りまわり草の中にかくれたり、物置小屋にとびこんだりして身をかくすのにてんてこ舞いしていたよ」

村人3（方言でせりふを言う）

「あわてて転んで泣いている子もいたさー。あきさみよー、天井に登って身を隠す者もいたねー」

村人4（方言でせりふを言う）

「逃げるのに精いっぱいはどうしていいかわからなかったはずねー」

村人5（方言でせりふを言う）

「いちでーじなっているさー何がおきる
かわからないし、他人事じゃないよね。

心配さーこれからどうなるのかねー怖いさー」

村人1（方言でせりふを言う）

「ありあり！話をすれば影とやら！もう

きさ、あそこからこつちに向かってくる

よー。早く隠れるー隠れる」

（村人たちはそれぞれの場所を探して身をひそめ、物陰からのぞいて
見ている。そこへ西の国の行列が太鼓やら、らっぱを吹きならしながら
らやってくる。行列は舞台を一周りして中央までやってきて立ち止
まる。そして手に剣を持ち、空高くかざして）

西の役人（中国語でせりふを言う）

「来啊！目標 城楼 前進！ 前進！ 前進！ 前進！」

（訳） さあ！城をめざして進むのだ！進め進め）

（舞台の中央で行列をつくったまま行進して一回りする）

西の国の家来1（中国語でせりふを言う）

「是！目標 城楼 前進！ 前進！」

（訳） それ！進め進め）

（全員太鼓にあわせて行進し行列は、足踏みしながら舞台の裾へと
去っていく。行列が去って行ったと同時にきじむなーが舞台に飛び出
してくる）

きじむなー（方言でせりふを言う）

「飛び出したる私はこの島のきじむなー
であります。通訳のお手伝いに来ました。
舞台の人達はあの世の人ですから、私の
姿は見えないはずですが、観客の皆さん
は今生きてこの世にいますから私の姿が
見えるはずです。今さっき言ったことば
はですね「さあ、城をめざして進め、進
め。皆、進め進めと言っているんです。
あんせーまたやーさい・・・」

（きじむなーが言い終わり舞台の裾にひっこむと、幕が降りる）

三幕

★ナレーション

西の国の王様の使いだと言う役人は城につくなり王様に向かって乱
暴な態度でこう言いました。「私たちの国はこの島の何百倍も何千倍も
広い土地で農作物が豊かに実り珍しい産物や宝物が沢山とれる国で、
しかも戦いに一度も負けたことのないとても強い国である。だから戦
いたくなければわが国の言う事を聞いて、いますぐ属国になるように！
さもなければこの小さな島国など捻りつぶしてやると脅迫してきたの
です。しかしだまって属国になるといふのなら山と積んできた宝物を
お土産にやるとしよう。と迫って来たのです。」

★場所

城の王様の謁見の間

（舞台の一段と高い中央には島の王様が家来をしたがえて腰かけている。舞台の上手から西の国の行列の一行が太鼓に合わせ足踏みしながら神輿を先頭に入ってきて来る。行列は舞台の中央左側までやってきて立ち止まる）

西の国の役人（中国語でせりふを言う）

「终于 到了。来啊！让我 在 国王面前 下轿。」

（訳） やっと着いたぞ。さあ！王様の前までわしを連れていけ）

西の国の家来2（中国語でせりふを言う）

「遵命。」

（訳） 承知いたしました）

（きじむなーが舞台の裾より飛び出して来る）

きじむなー（方言でせりふを言う）

「ありあり西の役人は王様の前でわしを

下ろしてくれと頼んでいるさ！」

（きじむなーは言い終わると舞台の裾に引っ込む。家来は役人を神輿にのせたまま、王様の前まで連れて行く。役人は神輿をおりて王様にむかって武器を持った家来数名とつかつかと詰め寄る）

西の国の役人（中国語でせりふを言う）

「听着、我等 奉 西国皇帝 诏令 到此！我天

朝地大物博、胜于 你国 百倍千倍、衣作物、

奇珍异宝 不尽其数！兵强将广、摧毁 你等

小国、易如反掌。听着、我国 征战无数、
屡战屡胜、降服 国度 无数。望 汝等 听从
皇命、臣服我国 为附属国。否则、一战
不可避免！马上 同 家臣 商议后 決定。
如有不从、立即开战！不过、你等 若可遵从
我 天朝皇帝 诏令、可 赏赐 成山的 宝物、
務必 好好 思量！」

（訳） やいのやい！よくきいておけ！わたしたちは西の国の王様の命令でこの国にやってきたのだ。私達の国はこの島の何百倍も何千倍も広い土地で、農産物が豊かに実り珍しい宝石や珍しい宝のとれる大きな、大きな国だ。この小さな島国など叩き潰して家来にするなど朝飯前だ。よくわかったか、今まで何度も戦って、たくさん国々をしたがえてきた強い国だ。一度も戦いに負けたことのないのが我が国であ

る。さあ、我が国の言うことを聞いて、素直に属国になるか、それとも戦かうかどうかだ。家来と相談して今すぐ返事をしろ。さもなければ、戦うまでだ。しかし、だまって素直に我が国の王様にしたがうというのなら山と積んで持ってきた宝物をおみやげにやってもよい。しかと考えるがいい、へたな事を考えると身のためにならんぞ！よいな！
（きじむなーがまた飛び出て来る）

きじむなー（方言でせりふを言う）

「あきよーなーあきよーなー自分の国は
とても強い国だから戦いたくなければ
属国になれ！と言ってとても威張っているさー。いじ！属国になるんだったら
持ってきた宝物をお土産にあげるが、今
すぐ属国にならなければこの島国など叩

きつぶしてくれろと言って大変な勢いで
戦いを挑んできたねー・・・でーじなとー
ん、でーじなとーん、ちゃーすがてなー
わんねーしらんどーへーくひんぎら
な！」

（きじむなーが舞台の裾にひっこむとさらに数名の家来たちが武器を
手に走り寄ってきて、王様につきつける。）

王様（方言でせりふを言う）

「ま、まっってください。いきなりそんな
こと 言われても今すぐ一人で決めるわ
けにはいきません。どうしたらいいのや
ら、困った！困った！みななもの、こっ

ちへ、こっちへ。」（手招きをする。）

（家来が4, 5人ぞろぞろ王様のいる片隅へ集まってきて相談をす
る。）

島の役人1（方言でせりふを言う）

「今まで長い間、戦争などした事のない
この国で、戦い方も知らず、武器なども
ないところでどう戦えばいいと言うの
だ。」

島の役人2（方言でせりふを言う）

「勝ち目はないかもしれないがこちらに
も島の役人の意地というものがある。い
ちかばちか戦ってみるまでだ」

島の役人3（方言でせりふを言う）

「村の民の力を借りて戦えば何とかかならないだろうか、そうなれば数の上ではこちらが有利と思うのだがどうだろうか？」

島の家来4（方言でせりふを言う）

「そんなこと言っても、くわやかましかない農民に何ができるといふのだ。」

島の家来5（方言でせりふを言う）

「悔しいけど負ける事はつきりした戦いならば、ひととまず属国になったほうが利口ではないのかい」

王様（方言でせりふを言う）

「うーん。どれもこれもみんな一理はあるにはある。うーんしかし・・・よし、みんなの考えていることはわかった。なんとか返事をせねばならぬ」

（王様の家来たちはもとの位置に戻る。王様は西の国の役人に向かって）

王様（方言でせりふを言う）

「それでは返事をする事にしよう。ほんとうならば正々堂々と戦って追い返したいところだがこの島は小さくて貧しい上に、島の住人は戦いを好まない人々なるがゆえに、民の事を考えるとしかたあるまい。あなたの国の属国になりましたよ

う。ただし、たとえ小さくても国を引き渡すことはそうたやすいことではありません。いろいろと準備がありますので来年の秋まで待つてもらいましょう。そのときはすべての書類や必要なものをそろえてお渡しすることができそうです。そのときまで待つてください。その間ひとまず私の国でゆつくりと休まれて旅の疲れを癒してください。城の東側には静かな別邸もありますので、十分かつろいでいただきます。

西の役人（中国語でせりふを言う）

「如此 決断 甚好！ 我等 本

无意开战。若 可 服从 我

天朝皇帝、我国絶二言、此事就如此決定。」

（訳） そうかそうか、よく決断してくれた。それはありがたい。我々だって戦いはもとより避けたいと思うのが本音である。我が国の王様に従うのなら、何の文句がありませんようや。それではそのようにするとしてよう。）

（きじむなーが舞台に飛び出してくる）

きじむなー（方言でせりふを言う）

「あきよーなー、あきよなー西の国の

役人は、とーとーゆーかんげーてーさ。

といって納得しているみたいですねー

だから城の別邸でしばらく過ごさせて

もらいますと言っていますよ！ちゃー
んならんがやたら！わったーな！知ら
んでー」

（きじむなーが舞台から引つ込むと西の国の役人達一行は舞台の下手に列をつくりながら去っていく。一方、島の役人達はビックリ仰天してお互い顔を見合わせうろたえる）

島の役人1（方言でせりふを言う）

「王様！王様！これでよいのですか？」

島の役人2（方言でせりふを言う）

「王様―王様―、悔しいじゃありませんか？」

（敵が去るや王様をかこんで家来たちが走り寄り悔し泣きになく。そして頭を抱え、首をふりふり、困った様子で腕をくみながら歩きうな

だれる。みんな苦渋にみちた表情で舞台をゆっくり歩き回り、うろたえているところを照明が段々暗くなり、舞台はそのまま暗闇につつまれる。）

★ナレーション

西の国の役人たちが城中を去ってあれから幾日が過ぎたことでしょう。今度は北の国の將軍様のお使いだという役人がまたしても大勢の家来をお供に連れてやってきました。

（暗闇から照明が段々明るくなりもとの調 見の間がそのまま模様替えてして現われる。上手には北の国の將軍様の使いの役人や家来が行列をなして立って控えている。そこへ北の役人が一歩前の方に歩み出て言う）

北の役人

「エッヘン。わたしは北の国の將軍様のお使いでこの国に伝言をたずさえてやってきた。これから王様に会ってしかと將軍様の考えていることをお伝えしなければ、何日も何日もはるばる船にのって苦勞して訪ねてきた甲斐がないわい！どれ今から王様に会ってくるとしよう」

北の役人

「皆の者いくぞ！ついてこい！」

（王様の前までつかつかと詰め寄り家来共々武器を手に王様を脅すよ

うに取り囲み荒々しい口調で言う）

北の役人

「耳をかつぽじってよく聞くのだ！よいな！」

（北の役人は巻物をおもむろに広げて読みはじめる）

北の役人

「前略 そなたの国の漁民が再三再四にわたって、我が国に遭難して流れ着いた。その漁民達を助けて、命を救って親切にしてあげた上に、長い間世話をして送り返したのにもかかわらず今まで何一つ音沙汰がないばかりかお礼の品ひとつ返っ

てこないとはどういうことだ。礼儀知らずにも程があるというもの。もしそなたの国がいつまでもこのような無礼な態度をとるのなら、ただちに家来を送り、征伐してくれよう。ただし、わが北の国の属国になるというなら、今までのことは水に流してもよいと考えている。ただちに使いの者に返事されたし」

早々

北の国の將軍より

（読み終わったのちも、北の国の家来たちは王様のもとへ詰め寄って威嚇する。）

北の役人

「さあ、わが將軍さまの伝言をよく聞いたか？どうする！ふとどきもの。我が国の將軍様は怒りにふるえておる。しかし、そこをじつと我慢して返事を待つておられるのだ。さあ、いますぐ返事をしろ！返事いかんによっては決して許されるものではないと心得よ。よいな！」

北の家来1

「聞くところによると、最近西の国の王様のお使いがやってきて、お土産をたんと置いて行ったというではないか。何を置いて行ったのだ。どんな宝物だ。外にもいろいろ隠しておるのだろう。わが將

軍様にお礼の品物がないとはけっして言
わせはしないぞ、よいな！」

（北の役人たちが王様や島の役人達をどなりちらかし武器をつきつけ
て威嚇するので、島の役人たちはおろおろして恐れをなし、王様のま
わりに集まって来て、一塊になり固くなっている）

北の役人

「さあ、早く返事をしろ。さもなくば
ただちにこの城を攻め落とし、さっさと
帰るまでじゃ。わかったか！」

（北の家来達はさらに王様や島の役人達を囲んで、どうするどうす
る！とどついて脅かしている）

王様（方言でせりふを言う）

「や、やめてください！やめてくださ
い！今返事をします。（間をおいて）おっ
しやることはよくわかりました。北の国
の家来になります。この島の漁民を
助てくれた御恩は決して忘れていたわ
けでございません。この島に毎年やって
くる怪物のためにすべてを失ってしま
い、村人たちの命をつなぐことに精いっ
ぱいで、何かお礼をしなければと常に思
いあぐねていたのですが、どう
する事もできずにととう今今になっ
てしまったのでございます。どうぞ、こ

のご無礼をお許してください。そのかわり、西の国よりいただいた珍しい宝物がありますので、お好きなだけ、おみやげに差し上げます、どうぞ、腹も立てずに怒りをおさめてください。わたくしも、小さい国ではありながら、一国一城の主、すぐさま国を渡すわけにはまいりません。いろいろ準備がございますので、しばらくお待ちください。今はひとまず北の国へお帰りくださって、来年の秋にまたいらっしゃってください。そのとき、すべてのものを整えて、お渡しいたしましょう」

北の役人

「よしよし、ずいぶん物分りが良いではないか！我が国の属国になるというのなら、文句のいいようもあるまい。決して約束をたがえるでないぞ。わかったか、よいな！」

北の家来2

「やれやれ、これで一段落ついたわい。わが国の属国になれば今後、この国の産物や宝物はすべて我が国のものになるというわけだ。えへへ！將軍様もたいした事を考え付いたものだわい」

北の家来1

「これで片付いたわい。全くもう・・・手のやけるやつらだ！」

（北の役人は列をなして全員下手に去っていく。）

四幕

★場面

城内の別室

（舞台の真ん中にいちだんと高い王様の席がこさえてある。王様はその席に座したままうなだれて腕を組み、困った様子で考え込んでいる。島の役人達は王様を囲んでハの字型に座布団にすわって同じく腕を組み困った様子で考え込んでいる）

王様（方言でせりふを言う）

「わしは、西の国の役人にも北の国の役人にも城を明け渡すと、同じことを言うて約束したのだが、わしにははつきりとした考えがあったわけではない。そのときのならゆきでしかたなくあのようにならなければならなかった。はてどうしてよいのやら！困ったことになった。今更ながらとんでもない事になったものだ・じゃーへーなどおーん、ちゃーせーしむがやー。何か良い考えはないものか、皆の者しかと考えてみよ！」

（島の家来達は立ち上がっている者、座り込んでいる者それぞれ腕を組みながら考えこんでいる。）

島の役人3（方言でせりふを言う）

「わたしは二晩、三晩、眠らないで考えてみたのだが、いい考えは浮かばなかった……」

島の役人4（方言でせりふを言う）

「わしもご飯も食べずに、一步も家から出ないで考えたのですが、なかなかいい考えにはいたりませんでした……」

島の役人5（方言でせりふを言う）

「あれがいいか、これがいいか一応考えて見たのだが。どれも納得のいくものではなくて……困ったもんだ。ちゃーすがやー、ちゃーせーしむがやー」

島の役人5（方言でせりふを言う）

「はきさみよー、むちかしむんやさ。西の国ばかりでなく、北の国も、となるとどうしていいものか全く見当がつかなくて。うーん。じゃーへーなとん」

島の役人1（方言でせりふを言う）

「難しい問題になったもんだ。わらばーの宿題や簡単なやつが。わしとしたところが、ちゃーしーねましがやら……むさつと、わかいびらん。」

島の役人2（方言でせりふを言う）

「あんせーこれは誰がどんなに考えてみてもいい方法はないのかもしれない……」

（しまいには、みんな、そこらじゅう腕を組んで考え込み、うなりなが

らうろついて歩いていく。照明もだんだん暗くなって、徐々に消えていく）

★ナレーション

月日はどんどん過ぎ去って行きました。春が過ぎ、夏が過ぎ、いよいよ約束の秋がやってきました」

（照明が段々明るくなり、再び舞台は元の謁見の間が現れる。そして役人は王様のまわりにそれぞれ腰かけている。）

王様（方言でせりふを言う）

「あれから、いくつ指を数えて来たことかわからない、民の事を考えると心の休まる日は一日たりとてなかった。しかし、

とうとう約束の秋がやってきた。約束は約束だからいたしかたがあるまい。（間）
「これより誰か二人に使いを頼みたいのだが誰かおるか？」

島の役人、3, 4（方言でせりふを言う）

「はい只今。何なりと御申しつけください」

（島の役人が二人王様の前に歩み出る）

王様（方言でせりふを言う）

「この手紙を西の国の役人と、北の国の役人に渡してくるがよい。」

（島の役人二人が、王様の前に歩み出て手紙をそれぞれ受け取る、）

王様（方言でせりふを言う）

「くれぐれも落とすではないぞ！しかと

たのんだぞ！」

島の役人3, 4（方言でせりふを言う）

「承知いたしました。早速届けてまいります」

（二人は懐に大事に手紙を入れて、その場を走り去る）

★ナレーション

二つの手紙には同じ文句でこうかいてありました。「前略 長いこと
お待たせいたしました。約束通り城の明け渡しの準備が出来ましたの
で明日、十五夜の満月のもと、はんた山の上のお月見会場へお越しだ

さい。酒を酌み交わしながら、城の引き渡しをいたします。お祝い
ですので、お供の家来も全員でお越しくください。

早々

島の王より

（幕が降りる。）

五幕

★場面

はんた山の上の宴会場

（山の上では月見の宴席が設けられていて酒やごちそうなどが並べら
れている、島の役人や村人たちが忙しそうに、準備に追われている。
舞台の中央に王様の腰掛が置かれている）

王様（方言でせりふを言う）

「月日が経つのは早い物で、城を明け渡す約束の日もあつという間にやって来た。残念で悔しいこと、この上ないことである。しかし約束したからには果たさねば島の王として、男としてのメンツがたつはずもない。しかし村の者達よ、油断するでないぞ。いつ何が起るかわからないのがこの世の常だから、身を引き締めてしかと心得ておけ、よいな！」

村人全員（方言でせりふを言う）

「わかりました」

村人2（方言でせりふを言う）

「思い起こせばこの島は貧しいけれども

みんな仲良く暮らすことができるとても幸せでした。これも徳の高い王様のおかげです。」

村人3（方言でせりふを言う）

「村の人々が天災にあつた時は、すぐに駆けつけて来てくださって、日照りがつづいて食物がないときには、すぐに城内の米や水を配ってくださいました。その時はほんとうにありがたくて助かりました。たくさんの命が救われたものです」

村人4（方言でせりふを言う）

「いつまでもこのまま、暮らしていければ十分でした。ああ、この緑ゆたかな平和な島を西の国、北の国の人達に渡さ

なければならぬなんて、なんと悲しい
ことでしょう・・・」

村人5（方言でせりふを言う）

「王様の元で、戦（いくさ）のない世の
中がずっと続いていけば、どんなに幸せ
だったことでしょうか・・・なんと、悔
しいことでしょう。」

村人1（方言でせりふを言う）

「ご先祖様や島の神様になんとお詫びを
してよいものか、胸がいたみ入ります。」

村人2（方言でせりふを言う）

「心が引きちぎられるようでした。ま
ん。こんな思いはしたくはありませんで
した。」
（しくしく泣く）

★ナレーション

早速ふたつの国の役人がお供全員を引き連れてやってきました。

（舞台の上手から小走りに息を切らして島の役人が入ってくる。）

島の役人5（方言でせりふを言う）

「ありありあり！あそこから西の国の役
人がお供の者たちみんな連れてやってく
るぞー」

（下手からまた小走りに島の役人が息を切らして入ってくる。）

島の役人1（方言でせりふを言う）

「ありありあり！くまからん、北の国の
役人や臣下の者達みんながやってくるぞー」

（上手から西の国の隊列が楽器をならしながら鉄砲を持って、下手から北の国の隊列が刀や槍を持って同時に舞台に隊列を組んで入場して来る。そして舞台の中央で鉢合わせになりおたがいに見合わせ驚きふためく）

西の役人と家来達（中国語でせりふを言う）

「啊呀呀！啊呀呀！怎么回事。」

（訳） やっやっ！やっやっ！どう言うことだ）

北の役人

「なんだ、なんだ！これから城の明け

渡しの儀式が始まるのだ！邪魔だ邪魔

だ！どけどけ！」

（きじむなーが上手から下手に向かってせりふを言いながらに飛び出て来て走り去る）

きじむなー

うりひゃーうりひゃー戦が始まるよー

「くれーぬやるばーが」と言っただ怒っているよー

（両陣営とも武器を手に一步も引き下がらず小競り合いになり戦いは段々勢いづいていく。と、そのとき、みるみるうちに空がかき曇り雨がざーざー、風がびゅーびゅー吹き雷がごろごろ鳴り渡って、あたりは一面薄暗くなり、雷がびかびか光りだし、ただならぬ天気となる。）

島の役人2（方言でせりふを言う）

「でーじなどーんどー、でーじなどん
どー、怪物がやってくるぞーひんぎれー、
ひんぎれー、むるひんぎれー！」

島の役人3（方言でせりふを言う）

「うりひゃー、へーくひんぎらんきねー、
でーじすんどーひんぎれーひんぎれー」

島の役人4（方言でせりふを言う）

「早くあわていれーあわていれー風も雨
も強くなつてくるぞー急げ急げ！」

王様（方言でせりふを言う）

「島ん人やむるひんぎれー油断するな
よー命どう宝どう！」

（島の人達や役人は舞台の左右に走りながら、徐々に舞台から去っていく。舞台では照明が点滅する中を、西の国と北の国の役人たちは刀や槍で戦ったり、鉄砲でパンパンと音をたてながら、打ち合い、しばらく戦場と化して、舞台は大騒ぎになる。舞台でしばらく暴れた後、舞台の照明と音は段々消えていく、そして幕が降りる）

★ナレーション

島の人達が準備したごちそうや酒や、城の明け渡しに整えて置いてあった書類や道具もろとも全部きれいさっぱり、持ち去られてしまつて、あたりはただの広い野原が広がっているばかりでした。

（照明が段々明るくなり、ただ広いばかりの元の野原に戻る。上手や下手から村人や島の役人達が小走りに叫びながら、舞台の中央に出て来る。）

村人1（方言でせりふを言う）

「あきさみよーあきさみよー西の役人、北の役人、お供の家来たちも、みんな、あれよ、あれよと言う間に、怪物にかっさらわれて消えてしまった」

島の役人4（方言でせりふを言う）

「渦をまきながら、龍のように、天高く、風とともに、登って行ったのが見えていたが、どこまで吹き飛ばされてしまったのか、あつと言う間のできごとだった！かわいそうなことだ。もう助かる事はあ
るまい」

村人2（方言でせりふを言う）

「怪物がどんなに怖いものか知らないあ

の人達はきつと油断して逃げおくれたに
違いないわい」

村人3（方言でせりふを言う）

「すごかったねーいまさらながら怪物の
恐ろしさと言うものがどんなものか思い
知らされた思いでしたよ！」

村人4（方言でせりふを言う）

「わんねーただ恐ろしくて、くちやぐわー
の片隅で隠れてじっとしていたさー」

島の役人5（方言でせりふを言う）

「敵にとつては災難だったに違いない。
ほんとにみんなどこに消えたんだろうね」

村人5（方言でせりふを言う）

「あんなに沢山準備していたごちそう

も、酒もみんな吹き飛ばされて露と消えてしまった。ああ！もったいない！もったいない。とても食べたかったのによ！惜しいことをしてしまったもんだー」

村人1（方言でせりふを言う）

「やんやー、ふとところに取り込んでおけばよかったのだ、今となつては後のまつりよ！後のまつり」

島の役人1（方言でせりふを言う）

「えーえーがちまやーたー何をのんきなことを言っている！あんなに大きな怪物が暴れたというのに、命があつただけでもありがたいと思わないと、バチが当たると言うものよ！」

村人2（方言でせりふを言う）

「やんよー、わつたー島人たちは、王様の命令ですぐ避難して隠れていたお蔭でほれ、この通り、生きてぴんぴんしているではないか。ああ、かりゆし、かりゆし、なんと、ありがたいことだ」

島の役人2（方言でせりふを言う）

「そうだとも！これも知恵のある王様のこころ配りのお蔭で、こうして村の民はみんな無事でやり過ごすことが出来たのではないか。しかと感謝せよ。」

村人3（方言でせりふを言う）

「それにしても、西の国や北の国の臣下

のちゃーはどこまで飛ばされたことやら・・・」
村人4（方言でせりふを言う）

「あんなに暴れまわる怪物を見たことが
ない連中のことさぞかしびつくりしたこ
とでしょう。あのうろたえ方はまさに滑
稽としか言いようがなかったわい。・・・
ハハハハ」

村人5（方言でせりふを言う）

「あつちにふらふら、こつちにふらふら、
全く酒も飲まないのに酒飲みのように
よっぱらっているのがおかしくて、おか
しくて・・・あつはつは！」

村人1（方言でせりふを言う）

「そればかりではないぞ、パンパン、パ

ンパン鉄砲を打つものの、風にあおられ
て、的も絞り切れず、当たるはずもない
鉄砲をただパンパン打ちまくってばかり
で、ほんとうに滑稽でたとえようがな
かったさー。お蔭で胸がすつーとしたものだ。」

村人2（方言でせりふを言う）

「おいおい！所で、なぜ王様はこの年の
この月のこの日に怪物が現れることを
知っていたのかねー不思議なことだと思
わないのかい。」

村人3（方言でせりふを言う）

「そうだそうだ！それよそれ！わんねー、
じこーみじらさんでい、うむとーたさー」

村人4（方言でせりふを言う）

「いくらなんでもまさか！魔術を使ったわけじゃないよねー」

島の役人5（方言でせりふを言う）

「あたりめーぬくとうやさー！王様が魔法使いと言う話はどこにもないだろう。わんねー役人だから王様のことだったらよく知っている。言って聞かせましょうか！」

村人2（方言でせりふを言う）

「うん！とーとー、ぜひお願いさびら」

島の役人5（方言でせりふを言う）

「じゃー聞かすから金待ってこい、金持って来たら聞かせても良いけど……」

村人2（方言でせりふを言う）

「そんなーわちやくいすなけーひやー」

島の役人5（方言でせりふを言う）

「わかった！わかった！じゃーはなしてあげるとしようー」（間を置く）

わったー！王様は、日ごろ怪物にやられてばかりでは大変だからといって、前々からこの年まで家来に命じて、怪物が現れる日を予測できるように、毎日細かく観察記録せよ！と臣下の者に言い渡していたのだ。村人達には知らせていなかったのだがね！」

村人3（方言でせりふを言う）

「ほんとうか！知らなかった、知らなかった。知るはずもないけれど驚き、桃の木、パイナップルの木？だね！」

島の役人1（方言でせりふを言う）

「それにしてもよく的中したものだ！さすが王様はすごい！」

村人4（方言でせりふを言う）

「はきさみよー、知恵の働く王様。何から何まで、考えてくださっていたとはびっくりだね。なんと賢く尊いお方でしょう」

村人5（方言でせりふを言う）

「それにしてもあの怪物もたまには人の役にたつもんだねー」

島の役人2（方言でせりふを言う）

「そうだね！夏の日照りが長く続く時に雨をたくさん運んできたりするからね」

島の役人3（方言でせりふを言う）

「だからわったー王様のようにまめに観

察記録して、じょうずに付き合っていないか
なければいけないと言うわけさー」

島の役人4（方言でせりふを言う）

「すごい！王様のなんとすごいことよ！
みなもの者、王様に感謝し、お礼を言って
拝むとしよう」

島の役人1（方言でせりふを言う）

「さあ！王様をお呼びしようではないか」

（島の役人は上手に入って、役人を従えた王様をお連れする。王様が
入場すると全員王様の方へむいてひれ伏し手を合わせて拝む）

村人達（方言でせりふを言う）

「ウートートー、アートートー。いつい
つまでも島の王様に栄えあれ！ウートー
トー、アートートー」

村人達（方言でせりふを言う）

「島の王様に神のご加護がありますよう
に……ウートートー、アートートー」

王様（方言でせりふを言う）

「よい、よい。もうよいではないか。怪
物もひとまず去った。西の国や北の国の
属国にもならず済んだのだ。もう心配
はいらないというもの。今日の手柄は島
人みんなが日頃頑張つて、正直に、まじ
めに働き、自分に与えられた仕事をやり
とげた結果である。でかした、でかした。」

これぞかりゆし、かりゆし。（間をおいて）

みんな、聞くがよい、今年の税金はご褒
美に半分に減らすことにしたぞー。」

村人達（方言でせりふを言う）

「うわー、うわーばんざーい、ばんざーい！」

村人達（方言でせりふを言う）

「王様ばんざーい。島人ばんざーい」

（村人たちは指笛を鳴らしたり、飛び跳ねたりしてお互い抱き合つて
喜びを分かち合つてさわいでいる。）

王様（方言でせりふを言う）

「さあ、今日は、みんなで歌ったり、踊
たりして、心おきなくこのよき日を祝う

としよう！」

島の役人2（方言でせりふを言う）

「さあさあ！三線、太鼓だ、へーくもっ

てこーい！へーくもってこーい」

（下手より三線や太鼓を持って村人が出て来る。そしてみんなで歌ったり踊ったりして、舞台狭しとばかりに歌い、踊りまくる。久らく村人が円陣になって、歌い踊っているところで幕が徐々に降りてくる。

終り
